

数値でみる本市の環境 水辺の生き物編

干潟は小さな水族館

問い合わせ 環境整備課 ☎2154








春から秋にかけて小瀬川河口に広がる干潟で、平成22年から毎年、観察会を開催しています。

近隣の広島市元宇品海岸では、1回の調査で約55種類、江田島市では約60種類の生き物が見つかっていますが、小瀬川河口の干潟には、どれくらいの種類の生き物が生息しているのでしょうか。

観察会では、平成23年から28年までの6年間で、貝類やエビ・カニ類など合計98種類もの生き物が見つかっています。

最も多いときには65種類の生き物が見つかっており、小瀬川河口にも多くの生き物が生息していることが分かります。

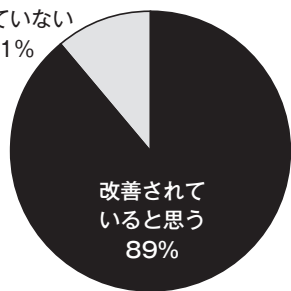
○これまでに干潟観察会で確認された生き物の種類

分 類		分 類	
エビ・カニ類 23種類 		ゴカイ類 5種類	
		カイメン類 1種類	
		ホシムシ類 1種類	
テッポウエビ 		ヒラムシ類 1種類 	
マメコブシガニ 			
貝類 37種類 		魚類 14種類 	
		ナベカ 	
オオヘビガイ 		ヨウジウオ 	
マテガイ 			
イソギンチャク類 3種類		海草類 1種類 	
キョクヒ類 3種類 		アマモ 	
マナマコ 		海藻類 9種類	
合 計	98種類		

○干潟観察会で実施した大竹市の環境に関するアンケート結果

《大竹市の環境について》

あまり改善
されていない
11%



○これまでの大竹市の環境に関する認識

- ・生活排水が流れ込み、川が汚いイメージがあった。
- ・工場地帯で海が汚い印象があった。
- ・川や海にあまり子どもを連れて行きたいとは思わなかった。



○干潟観察会に参加して感じたこと

- ・河口にはたくさんの生き物が生息し、汚れも気にならなかった。
- ・干潟だけでも生き物の多様性が復活しつつあると感じた。
- ・干潟に多くの生き物が生息しているのを見て、思っていたより環境が良いと思った。
- ・昔と比べて海がきれいになったと感じた。

また、干潟観察会の参加者に、環境に関するアンケートを行った結果、大竹市の環境に関する考えが大きく変わったとの回答が多くありました。



これまで、大気や河川の水質の状況についてもお知らせしてきましたが、昭和50年代と比べると、本市の環境の状況は大きく改善されています。

干潟観察会は、大竹の自然と触れ合うことのできる絶好の機会です。本年も開催予定ですので、ぜひご参加ください。